

「実技教科（体育）」グループ

本校舎中学部・小原光枝、佐藤礼子、飯田和也、藤原麻衣
本校舎高等部・千田一成、小田島五月、石川加奈、宮野大輔

1 研究テーマ

「学部間のつながりをもったボール運動の指導」

2 研究内容

- ① 実態把握について
- ② スキル獲得のための学習内容について
- ③ ゴール型ゲームにおける簡易ルールの設定

<本校舎中学部グループ>

「フットサル：パス、ドリブル、シュートについて」

<本校舎高等部グループ>

「フットサル：パス、ドリブル、シュートについて」

3 研究計画

	本校舎中学部グループ	本校舎高等部グループ
H29・5月	研究内容の確認・計画の立案	
6月	実態把握表の検討	計画/内容確認
7月	授業内容の検討	1CD、2CD、3CD 体育・フットサル実施・記録
8月	実践内容の進捗状態について共通理解	
9月	授業実践	一関フットサルチーム「ビバーレ」交流（2CD）
10月	実態把握表・授業内容の改善	研究授業（2年C組体育）
12月	学部のまとめ	
1月	研究のまとめについて	
2月	第2回全校研究会	

4 成果と課題

(1) 成果

中高統一した実態把握表を作成することができた。

実態把握表を用いたことで、児童生徒の現時点でのつまづきを把握し、目標を明確にすることができた。

ルーティンワークなど同じ繰り返しをすることで、技の習得につながった。

目標とするスキル習得のため、それに付随した補助的な運動についても検討することができた。

(2) 課題

実態把握表の有効な活用の仕方の検討をしていく。

体幹部分を中心とした筋力や持久力、スピード力はまだまだ不十分であるので、向上を図っていく。身体活動量の増加や準備体操についても、来年度以降も継続した取組と工夫が必要である。

学習集団及び練習で習得した技術をゲームで生かすための工夫や対人プレーの習得の練習が必要である。

5 まとめ

2年間の実践において、その研究内容は①実態把握について②スキル獲得のための学習内容について③簡易ルールの設定であった。

その内容に沿い、研究スタート時は、小中高の体育の年間指導計画を持ち寄り、題材や実施時期につい

て、共通理解を図った。

実態把握表については、先行研究を基に児童の実態に即して作成したり、中高統一の実態把握表を作成したりした。実態把握表の活用は、目標の設定や評価に有効であった。

その実態把握表から課題を見だし、課題をクリアするための学習内容や支援について検討していく中で、直接的な支援、視覚支援などのみならず、児童生徒に分かりやすいよう擬音語や擬態語等のオノマトペを用いることもいることも有効でことが確認できた。

また、中高において、ゲームのルールを設定できたことは、生徒達が在学期間中において主体的に運動に取り組むための一役を担うものであると考える。

テーマに掲げていた「学部間のつながり」を考えながらの実践を行うことができた。今後、更に児童生徒の健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指して取り組んでいきたい。